

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

MELDIA



大矢真那による取材

障がい者を応援!

アート展 **BORDERLESS** × 大矢真那

布施博による取材 布施博が訊く

スマイルウォーキング倶楽部 × 布施博

篠崎彩奈による取材

あやなんがいく

エスプールプラス × 篠崎彩奈

人気連載エッセイ 障がいのある息子と私

水越けいこの「M size / はじまり」

福祉事業所探訪

東京ムツミ会ファロ

月刊メルディア
VOL.30
TAKE FREE

MELDIA

2020
JUNE

VOL.30

月刊MELDIA VOL.30 2020年4月25日発行(毎月1回25日発行) 第30号 通巻30号
発行所 / 一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

TAKE FREE



Design Your Life

MELDIA
GROUP

同じ家は、つくらない。



メルディアグループ
<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計
〒163-0632
東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F

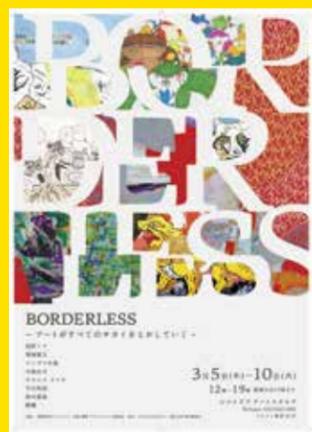
メルディアグループ
公式Instagramアカウント
完成事例公開中! 「#メルディアグループ」で検索
[@meldia_group](https://www.instagram.com/meldia_group)

すべての境界を解かしていく

ボーダレスなアートは

社会属性も超越するのが芸術の力

多様性を認め合い



一般財団法人メルディア主催・
第6回メルディアカフェ特別編

アート展



「BORDERLESS」
アートがすべてのサカイを
とがしていく

出展作家 ※順不同

- 清野 ミナ
- 菊地 雅文
- アンデス 中島
- 中島 由夫
- 北村 環
- 平山 和詩
- 鈴木 郁美
- 柳 剛

本誌の発行元である一般財団法人メルディアが、その社会貢献活動の一環として「人・社会・福祉」
を結び付けるために開催しているイベントが「メルディアカフェ」です。

それぞれの属性や個性に一切の垣根を設けずに、多様性を認め合う社会の実現に向けた一助とな
れるようにという意図で開催されています。

今回で6度目となる本イベントは、これまでと趣向を変え「BORDERLESS」というタイトルの
アート展として催されました。

海外で活動している作家さんたち、国内で活躍する作家さんたち、そして障がいのある作家さん
たちなど、あらゆるボーダーを超えたアート展をレポートしたいと思います。



アートは全ての垣根を超える
作家の属性は評価に必要ない

障がいのある人たち、そのご家族、障がい者支援に携わる人たち、本誌の読者など、誰でも参加できることを目標として開催されているのが「メルディアカフェ」です。
社会的な属性に左右されず、時間や体験を共有することで、個性や多様性を認め合うことを目的にして、オープンなカフェ形式で開催されるのが通例でした。でも今回は、これまでのイベント内容とは趣向が違います。
メインのタイトルを「BORDERLESS (ボーダレス)」、サブタイトルを「アートがすべての



大矢 真那

おおや まさな

サカイをとかしていく」とし、メルディアの活動理念に照らした題名が冠されたアート展として、ヒルトン東京(新宿区)内の「ヒルトピア アートスクエア」で催されました。
出展したアーティストさんは8人。海外に活動拠点を置く人、国内で活動する人、障がいのある人たちなど、国、性別、属性、境遇に左右されることのない、多様なアーティストさんたちの作品が展示されていました。
それぞれの作品は掲載した写真を見ていただくとして、今回のアーティストさんたち、そして作品群の選定を担当したのはアートディレクターの入澤日彩子さん。



一般財団法人メルディア
事務局

後藤 正善

ごとう まさよし

大矢 どんな観点で作品を選定したのですか？
入澤 作家の属性に関わらず、それぞれの作品を純粋にアートとして鑑賞して欲しいという意図を持って選びました。
大矢 これまでにメルディアで取材した障がいのあるアーティストさんの作品もありますね。
入澤 作家の選定を進める中でメルディアのバックナンバーを参考にさせて頂きました。「障がいのある」という修飾を引いて、アートとしての価値が高い作品、多くの人の評価が得られると判断した作品を選びました。
大矢 属性に関わらず選定したとは？
入澤 本来、アートを鑑賞するのに作家の属性という情報は必要ないはずだからです。



アプリアスシー合同会社 / CEO
BORDERLESS アート展 / アートディレクター

入澤 日彩子さん

いりさわ ひさこ

大矢 今回の展示作品の中には入澤さん自らが障がいのあるアーティストさんたちの作品を親に行って決めたものもあるそうですね。
入澤 企画をする段階で作品を写真で見ているだけでも、自分の目で本物を直に見ることでしか感じることはできないものがあるのではないかと思いました。
大矢 実際に作品を見てどう思いましたか？
入澤 写真で見た時よりも何倍もインパクトを受けました。作家の身体の中にある熱量のようなものも作品から感じることができました。
大矢 それは良かったです。
入澤 柳剛さんの作品ですが、絵の中に「色パレット」のようなものが必ず描かれているんです。それを見た時に「何で色パレットが!?」って、とても不思議でした。その秘密も知りたくて那須まで行ってしまいました。



アーティスト

清野 ミナさん

きよのみな

Movie



※本アート展で収録された動画は一般財団法人メルディアのサイトで閲覧できます。



<https://meldia.org/event/1779/>

一般財団法人メルディア

MELDIA

おかげさまで「一般財団法人メルディア」は設立2周年を迎えることができました。当財団では、障がいのある人を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じ、広く社会と人々に貢献するため、これらの事業を行っています。

02 広報誌の発行

障がいのある方と、そのご家族への情報発信を行うため、フリーペーパーの広報誌「月刊メルディア」を毎月発行しています。毎月2万部強を発行し、現在は、首都圏および中京エリアの大型商業施設や大型店舗、特別支援学校、全国の障がい者支援施設等にて無料配布しています。



04 サッカー支援

才能があっても家庭の経済的な事情などで、プロプレイヤーを目指すことをあきらめざるを得ない青少年たちの夢を応援し、支援するための「奨学制度」を設けています。2020年4月現在、選考会を経て選ばれた7名の若者に対しての支援を行っています。



01 事業内容

- ① 障がい者及び障がい者を支援する団体等への助成および支援事業
- ② 様々な理由からスポーツ(サッカー等)を続けることができない児童、青少年に対する助成および支援事業
- ③ その他の事業



03 取材活動

広報誌「月刊メルディア」では、障がい者支援事業所、障がい者雇用を推進している企業、スポーツ施設、各種団体、障がいのあるアーティストなどに取材をさせていただき、それらを掲載しています。取材記を当財団のFacebookページにでも紹介していますので、是非そちらも併せてご覧ください。



05 サッカー観戦チケットプレゼント

Jリーグのシーズン開催期間中は、「湘南ベルマーレ」のホームゲーム観戦チケットをプレゼントしています。療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの人と介添者の人、2名1組(ペア)で試合を観戦できます。観戦チケットをご希望の方は巻末の「チケットプレゼント」のページに記載の要項をご覧のうえ、ご応募ください。



ALL ABOUT MELDIA

メルディアとは、「メダル」を意味する英語の「MEDAL(メダル)」とイタリア語の「MEDAGLIA(メダリア)」を合わせた造語となっており、終の棲家を手に入れる喜びを「栄光に輝くメダルを手に入れるような喜び」に見立てています。誰しも人生は一度しかないものです。

その、一度限りの人生の夢の実現を、メルディアグループの住宅をお求めになるお客様と同じように、障がいのある人、経済的に恵まれない人、多様性のある多くの人たちの人生においても、「夢」を実現していただくための一助となれることを目標に、これからも当財団の社会貢献事業を進めて参ります。

■ 財団概要

名称 一般財団法人メルディア
(英文名: General Foundational Juridical Person MELDIA)
設立者 小池信三
設立日 2017年5月23日

所在地 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F
電話 03-5381-3213
URL <https://meldia.org/>
MAIL org@gf-meldia.com



MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



障がい者を応援 アート展「BORDERLESS」

アーティスト



アンデス中島さん
あんですなかじま



北村環さん
きたむらたまき



菊地雅文さん
きくちまさふみ

大矢 他の障がいのあるアーティストさんたちの作品についても教えてください。

入澤 平山和詩さんの作品はすごくカラフルで見る人の目を引きまします。奥行きや広がりも感じられるのが魅力です。

大矢 見るだけで楽しくなれる感じがします。

入澤 カラフルなマーカーと色鉛筆で描かれた清野ミナさんの作品は、ジューっと見ていると、まるで自分が彼女の絵の中の街の住人になったかのような不思議な感覚が味わえたんです。そこに魅かれました。

大矢 清野ミナさんについては以前にも本誌で取材をしたことがありましたが、とても緻密に描かれた作品が印象的でした。

入澤 ハートをモチーフにした鈴木郁美さんの作品は素直に「可愛い!」と感じたんですね。女性に共感してもらえ作品ではないかと。

大矢 私もこの作品を可愛いと思いました。

入澤 描かれていたハートの一つ一つに作家の願いが込められているようにも感じます。

大矢 障がいのあるアーティストさん以外の人の紹介もお願いします。

入澤 アンデス中島さんは、スウェーデンで生まれ育った作家です。3歳から油絵を描き始めて、早くも7歳で個展を開いたという逸話の持ち主です。どの作品も日本の作家にはない独特の「空気があります。作品を見るだけで自然の豊かさや優しさなどを感じることができると思います。

大矢 確かにそう感じます。

入澤 彼のお父さんが同じくスウェーデンを拠点に活動している中島由夫さんです。

大矢 親子揃ってアーティストなんです!

入澤 北村環さんは作家になる前はサラリーマンだったのですが、作画の方



法がとても独特で、その新規性に対する評価が高いんです。

大矢 「新規性」とは何ですか?

入澤 旧来の作品には使われることのなかった新しい作画の方法をいかに編み出すか、どんな画材を使うか、というオリジナリティという意味での新規性です。

大矢 近くで見ると、ものすごく緻密で、しかも立体感があつて迫力を感じます。

入澤 菊地雅文さんは、日常にある何気ないコマを切り取って作品に描いているんですが、見ているうちに作品の中に込められた壮大なメッセージが伝わってくると思います。

取材/大矢真那

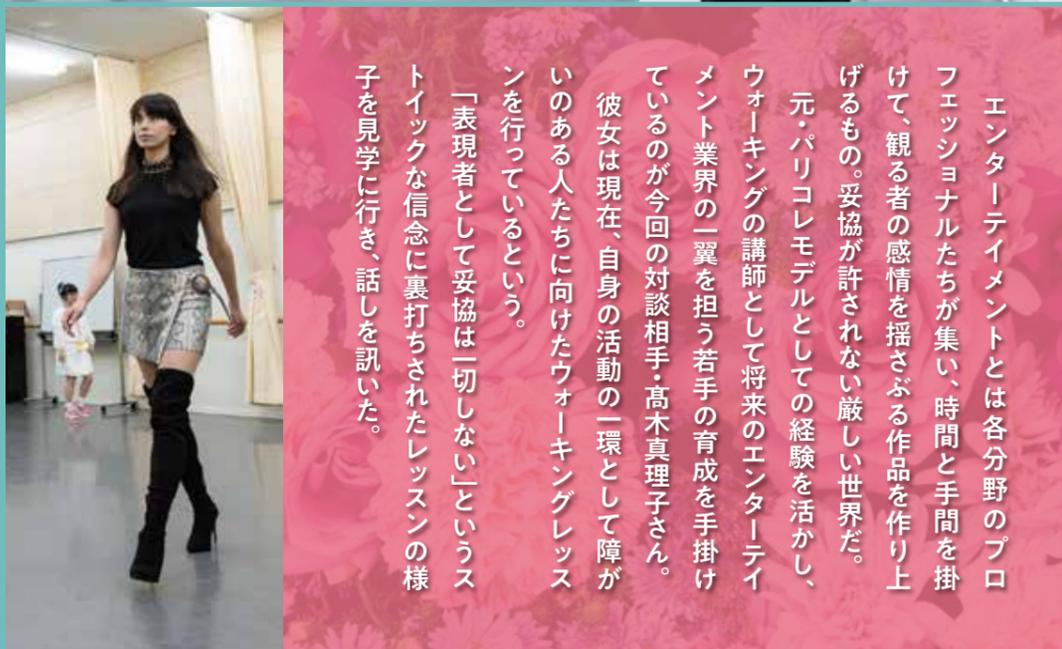


※編注/記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。

SMILE WALKING CLUB

元パリコレモデルが指導にあたる
ウォーキングレッスス
プロ意識を育てるカリキュラムが
障がいの壁を取り払う

スマイルウォーキング
倶楽部
×
布施博



エンターテイメントとは各分野のプロ
フェッショナルたちが集い、時間と手間を掛
けて、観る者の感情を揺さぶる作品を作り上
げるもの。妥協が許されない厳しい世界だ。
元・パリコレモデルとしての経験を活かし、
ウォーキングの講師として将来のエンターテイ
メント業界の「翼を担う若手の育成を手掛け
ているのが今回の対談相手・高木真理子さん。
彼女は現在、自身の活動の一環として障が
いのある人たちに向けたウォーキングレッス
ンを行っているという。
「表現者として妥協は一切しない」というス
トイックな信念に裏打ちされたレッスンの様
子を見学に行き、話を聞いた。



モデルとして通用するための 現場で求められる能力を養う

布施 障がいのある人たち向けのウォーキング
レッスンというのは初めて聞きました。どうして
これを始めようと思ったんですか？

高木 知的障がいのある子どもを持つ親たちか
ら聞いた話があったので。「彼らは何も出来
ないわけじゃない」という言葉を受けて「何か私
で力になれることはないかと。
布施 障がいのある人たちがウォーキングレッス
ンを受けることの利点とは何だと考えますか？

高木 福祉では歌やダンスなどの取り組みも多
いですが、それらは皆で同じ内容を繰り返すとい
う練習になることが多いと思います。
布施 そういう傾向はありますね。

高木 ウォーキングは基本的に1人で行うので、
自身のパフォーマンスを周囲と合わせなくてもい
いわけです。個々のパフォーマンスを十分に発揮
できるようにすることを念頭に置いて指導をし
ています。

布施 なるほど。
高木 モデルって現場ごとに違うことを要求さ
れることが多い仕事なんです。各現場で求められ
ることに即応できる能力が必要になります。
布施 自分の動線などもすぐに頭に入れないと
いけませんからね。

高木 だから、レッスン中も同じ内容をずっと行



知的障がい者と健常者をつなぐ
ファッションマガジン「Just Smile!!」



うことをしません。常に動線や同時に歩く人数な
どに変化を付けて教えるようにしています。
布施 即応力というか、対応力を養うことができ
るように教えているわけですか。
高木 レッスン生たちには状況の変化に対応で
きるように教えていますし、実際、その能力が
徐々に向上していると感じます。
布施 取材の前にレッスンを見学させてもらい
ましたが、「言うべきことはしっかりと」とい
う感じの教え方でしたね。
高木 プロを目指す人たちに向けて、プロとして
通用するべく指導しているので、割とハッキリと
何でも言います。このレッスンに関しては「福祉」
の「環ではない」と捉えています。



一般社団法人スマイルウォーキング倶楽部
東京都千代田区九段南1-5-6
りそな九段ビル5F KSフロア
TEL / 03-5393-0577
<https://www.smilewalking.or.jp/>



個性を肯定しているからこそ 時には厳しいレッスンも行おう

布施 「福祉の「環ではない」というのは、具体的にはどんな指導をしているんですか？」

高木 レッスンを見ていただいたから分かると思いますが、レッスン中に私は「ダメ」という言葉を使っていましたよね？

布施 ええ、確かに。

高木 福祉の業界では知的障がいのある人などに対して「ダメ」という否定的な言葉は使わない傾向にあるそうです。でも、私はモデルとして必要なことを習得して欲しいと考えれば、時には「ダメ」と指導することもあります。

布施 「厳しい」とも取られそうですが、なぜそのような方針で指導しているのですか？

高木 プロを目指す人たちに向けて指導をしているのだと考えるからです。もちろん、障がいに對して配慮するのは大前提ですが、「できるこ



レッスンを受けてからの成長 その先にある未来と夢を訊く

布施 レッスン生たちの様子を見ると、高木さんの意図を汲んで自分から成長しようとしているかのような姿勢がうかがえます。

高木 例えば、新しく入ってきたレッスン生が何か困っていることや戸惑っているようなことがあるとしたら、以前からいる子たちが自ら率先して手助けをするという光景が頻繁に見られるようになりました。

布施 それは良いことだ。

高木 レッスンを何度も受けている子たちの中には、先を読んで行動することが多くなった子もいます。「気が利く」というか、自律して何かができるようになった子も多いと感じます。

布施 周囲に対して気配りができるようになるとか、気が利くというのは、エンターテイメントの世界でやっていくには必要な素養だと思います。あとは、努力を続けていけば、さらに成長できるんじゃないかなあ。

高木 成長といえば、つい最近、将来の夢についてをまた改めて聞いてみたんですが、自分が就きたい職業とかを具体的に答える子が増えていて、それがとても嬉しく思えました。

布施 将来に対しての目標があって、そこに到達するために努力をするというのは、とても重要なことだね。



「この範囲内だけでやってもらうのでは成長は望めない」と考えるからです。

布施 なるほど。一般的には「できることだけをやってもらう」という風潮はありますよね。

高木 レッスンを始めたばかりの頃ですが、レッスン生の親たちから「試着をさせたことがない」「だとか「字が書けないから書かせていない」などという話を聞くことがありました。

布施 「できないこと」を「できないまま」にして「やらせない」という傾向があるよ？

高木 自発的に何かができるようになったという経験が少ないんだな、と感じました。その結果、自身の中の「成長をしよう」とする意志さえ薄くなっているのではないかと感じました。

布施 「成長すること自体に慣れていない」ということですか？

高木 以前、レッスン生たちに自分の夢について尋ねた事があるんですが、「他人に優しくできるような人になりたい」というような回答が多かったです。

布施 それはそれで素敵な夢だけれど。

高木 素晴らしい夢だとは思いました。でも同時に、将来に自分が就きたい職業を答えた人がとても少ないということに気がきました。そこに疑問



を感じたんです。

布施 言われてみれば、確かにそつだ。

高木 目標設定が曖昧な人は、努力の方向性も定まらないし、自発的な成長が困難になってしまうことになります。

布施 なるほど。その通りだね。

高木 「知的障がいのある子どもができることを増やしてあげたいから指導をして欲しい」と請われて活動を始めました。彼らに合わせて指導をしていくのでは「できること」を増やすことは難しい。彼らが私に合わせるというかと努力すること、何かを吸収したり、何かを乗り越えたり、という成長があるはずだと思います。

取材後記

取材／布施博

レッスンを見学させてもらった。ウォーキングのレッスンでは、高木さんの指示に対して的確に動き、歩き、ポーズをとる生徒さんたちの堂々としたプロの挙動が見られた。

最近、「身だしなみ」を意識する生徒さんが多くなったと聞いた。身だしなみとは、すなわち自分が他の人からどう見られているのかを意識することだ。自身を客観的に見られるようになったという成長の証しでもある。

プロとしてエンターテイメント界を歩んでいく生徒さんたちが今よりももっと増えるだろうことが十分に期待できる取材となった。



高木さんから10年以上も指導を受けているというモデルのMoekaさん。「将来の夢はパリコレに出演すること」だと語る。

※編注／記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。



障がいのある人たちに向けた就労機会を創出することを目的にするのと同時に、企業の法定雇用率の達成に寄与するための貸し農園ソーシャルファーム「わーくはびねす農園」を全国で展開しているのがエスプールプラスです。既に同社では、千葉県や埼玉県など東京の郊外で貸し農園を展開しているそうです。しかし今回の農園は、都心部である板橋区内で開園を予定しているとのこと。用地の確保が難しい都心部で展開するという「屋内型農園」の概要と、そこで運営する目的などを聞いてきました。法定雇用率、障害者雇用促進法などの難しい用語も、私なりに解釈してみなさんに伝えていきたいと思います。



株式会社
エスプールプラス
東京都千代田区

AKB48 チーム A
篠崎彩奈

貸し農園の運営を架け橋とし 障がい者と企業の双方を繋ぐ

篠崎 障がいのある人たちが働くことができる農園を企業に向けて貸し出すという事業を展開しているそうですが、
星田 障がいのある人たちが働くことを前提に、安全面と衛生面に最大限の配慮を施した仕様の農園を用意して、それを法定雇用率の達成を図る企業に向けて貸し出しをしています。
篠崎 「法定雇用率」とは何ですか？
和田 「障害者雇用促進法」の中で企業に対して「雇用している全従業員の数に応じて障がいのある人たちの雇用割合を確保しなければならない」

障がいのある人たちの就労機会を増やす取り組み

用地確保が困難な都心部で 「屋内型農園」を開設する



として課されている数値のことです。

篠崎 そうなんです。初めて聞きました。

星田 障がいのある人たちが雇用したいけれど、どんな仕事してもらえば良いかが分からないという悩みを持つ企業も多いんです。

和田 就労を希望する障がいのある人たちと雇用を促進したい企業とを結び付ける「ソーシャルファーム」という理念に基づいた事業モデルになっています。農業によって、「働きたい」側と「雇用したい」側の双方の希望を叶えるのが「わーくはびねす農園」です。

篠崎 それにしても、なぜ農園というスタイルを選んだのですか？

和田 2010年の会社設立当初から、障がいのある人たちの特性と農業（農作業）の親和性が高いという点に着目していました。
篠崎 なるほど。

和田 今では、千葉県を中心に全国で19拠点の農園を展開していて、そこでは1500人以上の障がいのある人たちに農業に従事してもらえるようになりました。

篠崎 既にそんなに多くの障がいのある人たちが働いているという実績があったんですね。

和田 障がいのある人たちに安全に作業をしてもうらうにはどうすればいいか、どうやれば働きたいが生まれるのか、いかに経済的自立を支援するか、などを常に模索してきました。その中で多くの経験と実績を蓄積できたと思います。



株式会社エスプールプラス
東京都千代田区神田須田町 1-25
JR 神田万世橋ビル 17F
TEL / 03-6859-6555
<https://plus.spool.co.jp/>



「都心部で屋内型の農園を展開
構想の中にある利点と必然性」

篠崎 新しく「屋内型農園」を開設すると思いが、なぜ「屋内で農園を」と考えたのか、その辺りの経緯も教えてください。

星田 屋内だと天候の影響を受けにくいというのが理由の一つです。

和田 昨年（2019年）、台風による影響で18拠点ある農園のうち半数を超える9農園が被害に遭ってしまいました。

篠崎 2度にわたる台風の上陸による被害が各地で報告されていましたよね。

星田 復旧が終わるまでの間、障がいのある人



AKB48 チーム A
篠崎 彩奈
しのぎき あやな

たちが農園での作業に従事することができなくなったという問題が発生してしまいました。

篠崎 そうでしたか。

星田 それだけではなく、農作業ができない休業期間があったことによっても障がいのある人たちの中には、通常の生活リズムが崩れてしまったり、以降の作業に復帰することが難しくなってしまう人もいたんです。そういう状況をできるだけ減らしたいというのもありました。

株式会社エスプールプラス
社長／執行役員
和田 一紀 さん
わたかずのり



「不動産物件の有効活用も視野
通うことが楽しくなる農園を」

篠崎 屋内型農園を発想するに至った理由は何にもありますか？

星田 屋外での作業に適さない人、例えば、体温調整が苦手な人などにも就労の機会が提供できるのではないかと考えました。また、生活圏内から近い場所で就労を望む人たちの希望を叶えたいという気持ちもありました。

篠崎 従来型の農園では就労するのが難しくかった人にも対応できるよつになるかと？

和田 そうですね。それと、屋内で野菜を栽培

できるということにもなりますね。

和田 それと、従来と同じ農園だと、どうしても大きな敷地が必要になってしまい、広い土地を求めるとなると、郊外に農園を作らざるを得ない状況です。そういう状況でもできるだけ減らしたいというのもありました。

篠崎 屋内型だったら天災によるリスクが軽減できるということにもなりますね。

和田 それと、従来と同じ農園だと、どうしても大きな敷地が必要になってしまい、広い土地を求めるとなると、郊外に農園を作らざるを得ない状況です。そういう状況でもできるだけ減らしたいというのもありました。



株式会社エスプールプラス
事業本部／リーダー
星田 真紀 さん
ほしだまき

なかつたわけです。

篠崎 都心部には大きな面積を確保するだけの土地がありませんよね。でも、都心部にこだわらないのであれば、郊外でも屋内型農園を作れるのでは？ と思いますが、都心部で展開する理由は他にもありますか？

和田 現在の農園で作業に従事する障がいのある人たちの中には都心部に住みながら、郊外の農園に通って来ている人もいるわけです。生活圏内から近いところで就労できるようにしてあげられるのではないかと考えました。

篠崎 都心部に作る需要と必然性があったということですね。

和田 大きな理由の一つにはなっています。

取材後記

「法定雇用率」とは「障害者雇用促進法」の中に規定されている数値で、これにより企業は「自社で雇用する従業員の数に合わせて一定数以上の障がいのある人々を雇用しなければならない」という義務を課されています。

この法定雇用率が2021年4月に2.3%へと引き上げられるため、多くの労働者を抱える企業では数値の達成が今後の課題になってくるのだといえます。

——と、このように私が取材で知り得た情報を分かりやすく皆さんにお伝えすることも社会貢献に繋がります。ぜひだと考える良い契機になった取材でもありました。

取材／篠崎 彩奈



Present



「あやなんセレクト
野菜セット」プレゼント

今回の取材先・エスプールプラスさんからの厚意により、記事中に登場の「わーくはびねす農園」で収穫予定の野菜の中から篠崎彩奈さんが選んだ「あやなんセレクト野菜セット」を本誌の読者10名様に抽選でプレゼントします。

応募は
こちらから



<http://san-office.jp/meldia/present.html>

応募方法

上記のURLにあるフォームに必要な事項を入力して送信してください。
※QRコードを読み込むと当該のメールフォームにリンクします。

応募締切

2020年5月25日

賞品の発送

2020年06月中旬～7月中旬

※詳細は「応募フォーム」をご確認ください。
※応募の際に入力していただいた情報(住所・氏名・連絡先など)は個人情報保護法を遵守して厳重に管理し、当選者への賞品の発送にのみ使用させていただきます。
※当選は発送をもって代えさせていただきます。

応募
してね!



YouTube

わーくはびねす農園PRムービー
「JOBに、JOYを。」
<https://youtu.be/00DeGrMBMZs>



※編注／記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。



Msize
エムサイズ
水越けいこ連載 30

はじまり

数年ぶりに再会した仕事仲間 さらに増した人としての魅力

仕事柄、私の周囲には音楽を生業とする人たちがたくさんいます。どの人も個性的で才能に溢れる素敵な人たちがばかりです。

今回は、その中のひとり、長くドラマーとして活動している人の話をしたいと思います。

彼は、大学時代に組んだバンドでメジャーデビューし、大ヒットにも恵まれて、若くしてミュージシャンとして成功を果しました。

現在はバンドを離れ、ソロとして活動していますが、その恵まれた感性と才能で今でも多くのライブやレコーディングにも参加するなど、売れっ子の現役ミュージシャンです。とても人柄が良くて、それも彼をスターダムに押し上げた大きな要因だったろうと思います。

心遣いには感謝をするばかり 母代わりだった長姉との別れ

私には20歳以上も年齢が上の長姉がいます。年齢が離れていることで、私はまだ小さい頃には姉は既に結婚をされていました。

親子ほど歳の離れた末っ子の私を常に気に掛けてくれていて、幼くして母を亡くした私にとってみれば、姉というよりは母のような存在でもありました。

姉は東京に住んでいました。離れて暮らしている私のことを気に掛けてくれていて、井の頭公園の近くにあった姉夫婦の自宅に何度も招いてくれました。

以前、彼とは何度も一緒に仕事をすることがありました。しかし、最近の私のコンサートではフルバンド（大編成の楽団）で行うことが少なくなっただけでもあって、ここ何年かは彼と一緒に仕事をしていませんでした。

少し前のこと。その彼と数年ぶりに会って話す機会がありました。

待ち合わせ場所に行くと、先に来ていた彼が私の姿を見るなり席から立ち上がり、「けいこさん、お久しぶりです！」と帽子を脱いで礼儀正しく挨拶をしてくれました。直接会うのは8年ぶりでしたが、以前の印象と少しも変わらず、明るく元氣な青年のままでした。

互いの近況報告、本題の仕事の話も済ませた頃、「実は今、ドラマー以外の仕事もしているんですよ」と彼が切り出しました。

「ついにプロデューサー業が作曲でも始めるの？」

私がまだ高校生だった頃、週末になると授業が終わってすぐに中央線に乗り、姉の住む東京へと向かうことが多くありました。

迎える休日は姉夫婦と一緒に都内の有名観光地を巡ったり、デパートでショッピングをしたり、時には姉と二人だけで井の頭公園を散策することもありました。

母との思い出を持たない私にしてみれば、姉との思い出こそが母親の記憶に代わるものでした。

休日が明けた翌日は早朝に姉夫婦の家を出て中央線に乗り、再び山梨へと戻ることになりません。帰路に就く私に対して、決まって姉がお弁当を手渡してくれたのです。

その当時の高校生といえ、お昼は自前で食事を用意する決まりでした。でも、既に母がいなかった私は毎日お弁当を自分で作って持つていく以外はありませんでしたから、姉が作ってくれるお弁当はとて有難く感じていました。

駅を離れる電車の中でお弁当に触ると、温もりがほのかに残っていることもありました。それを手のひらで感じるたびに「きつとお母さんが作ってくれるお弁当とはこういうものなんだろう」と想像していました。

母に代わって最大の愛情を私に注いでくれた姉の気持ちが嬉しくて、山梨に向かう電車の中で涙が溢れることもありました。

そんな姉ですが、ここ数年は体調が優れずいることが多く、東京の郊外にある病院に入院して



Keiko Mizukoshi

シンガーソングライター 水越 けいこ

1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の情報番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後、「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子・麗良と2人暮らしをしながら音楽活動と講演活動を続けている。

と、少々からかい気味に聞いた私に対して、まずは「違います」と否定し、「障がいのある子どもたちを放課後に預かるという仕事です」と、まじめな顔で返してきました。

想像もしていなかった答えに驚いて言葉に詰まっていると、彼が「うちの子どもに障がいがあるんです」といい、続けて「障がいのある子どもも育てていくうちに自分のやるべき仕事が見えてきた気がするんです」と、真剣な表情でいきさつを語ってくれました。

自身の子どもに障がいがあることをきっかけにして、ミュージシャンとして活動すること以外に障がい福祉の仕事もしようと思った彼。それを思い付くことも彼の才能と魅力でもあるのでしよう。そういう人だからこそ、ファンの人たちやミュージシャン仲間にも長く愛されているのだろうと思います。

いました。

ある日、姉の危篤が知らされました。コンサートの日程が重なり、私が病院に駆け付けたのは知らせがあった2日後。既に会話ができないほどの重篤でした。

姉に声を掛けますが反応はありません。でも、私が声を掛けるとわずかですが目が瞬くようにも見えました。

姉は翌朝に永眠しました。親族によると私がいに行きまで待つていたのだらうといっています。

いつでも自分の事よりも私と麗良のことを気に掛けてくれたお姉ちゃん。ありがとう。



水越けいこ「僕らの気持ち」絶賛発売中!



本誌の発送を担う
障がいのある人たちが
膨大な作業だが

多いからこそ
やりがいを感じる

2017年に創刊された本誌も、今号で通巻30号目を迎えることができました。これまでに、障がい、障がいのある人たち、障がい福祉に携わる事業所、障がい者支援をする人たち、障がいに関わる活動などを全国各地で取材してきました。

取材した内容は、執筆、編集、デザイン、印刷、製本、配送または配本など多くの工程を経て「月刊MELDIA」として全国の皆さんに毎月お届けしています。

この中で特筆すべきは「配本」の部分。数千にも及ぶ配本先に向けての発送作業を担っているのが、社会福祉法人東京ムツミ会ファロの利用者の皆さんです。

本誌が読者の手元に届くまで担うのは障がいのある人たち

本誌は創刊から2年半を過ぎました。発行を重ねるにつれ、認知度が上がってきたせいか、本誌を入手する方法について聞かれる機会が非常に多くなりました。また、入手方法についての問い合わせをいただくことも多くなりました。

「全国の配置拠点で入手できます」と「希望する人に配本をしています」と回答して、配置拠点の案内や配本の手順を説明してきました。

「配置拠点」とは文字通り、書架などに本誌が置かれている場所などのこと。「配本」とは入手を希望される人たちにに対して配送を利用して本誌を送ることです。

配置拠点へは専門の業者によって届けられていて、配本は新宿区内にある社会福祉法人東京ムツミ会ファロ(以下、ファロ)に委託して全国へと発送をお願いしています。

ここでの作業を担うのは同事業所を利用する障がいのある人たち。

配本を委託しているものの、改めて考えてみれば、数千にも及ぶ部数を全国に発送するのは膨大な作業量になるはずですが、

作業を委託することが障がいのある人たちの負担になっていないか、本誌の発行理念の一つでもある社会貢献にきちんと繋がっているのか、と



東京ムツミ会ファロ
東京都新宿区



いう2つを検証する必要があるのではないかと、という意見が編集会議の俎上に載りました。

そこで早速、同事業所に連絡を取り、3月の下旬に行われた配本作業の様子を取材させてもらいました。

東京メトロ丸の内線の新宿御苑前駅を降りてすぐ、新宿通りを靖国通り方向に曲がった繁華街にあるビル3階がファロです。

新宿一丁目に立地するビル内には大きなフロアが印象的です。手前のスペースには職員の方皆さん、奥にある2つの大きな部屋では同事業所の利用者が作業をしていました。

その中の一つ、右側奥の部屋で本誌を配本する作業が行われていました。

作業毎に熟練度が上がる傾向に
効率の向上で作業時間が短縮

編集 ここにある全部がMELDIAですか？
大島 そうです。でも、もう封入作業が済んでい



るものは別に置いてあるので、これで半分くらいの量になります。

編集 想像していた量より遥かに多いです。

大島 1部(1冊)ずつ封入して発送するものが多いですが、中には数十部をまとめて発送するものもあるので、作業量としては数日分くらいだと思います。

編集 作業の手順を教えてください。

社会福祉法人東京ムツミ会ファロ
東京都新宿区新宿1-16-16
テェア-カテリーナ3F
TEL / 03-3350-4437
http://mutumi.or.jp/



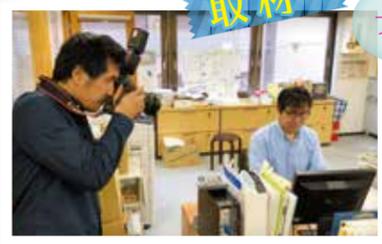


「月刊メルディア」が
みなさまのお手元に届くまで

ご協力
東京ムツミ会
ファロさん

取材

今回は
ファロさん



執筆&編集



いい記事に
してみます!

デザイン



見やすい
誌面を
心がけて!

印刷



ここから
ファロさんの
発送作業!

封入作業



部数分け



シール貼り



社会福祉法人東京ムツミ会ファロ 大島泰輔さん
指導員/精神保健福祉士 おおしまたいすけ

大島 まずは、宛て先の住所などを印刷した発送伝票と、宛て先ごとの部数を示した表を職員が作成します。その後で作業する日の利用者さんの人数に合わせて分担を決めます。それに合わせて作業を進めてもらっています。

編集 配本する部数が増えることは作業に掛かる時間も増えるということになると思います。作業が利用者の負担になっていたら申し訳ないという意見が編集部内にありました。

大島 そんなことはないです。確かに、発行ごとに配本をする部数が多くなってきているのですが、毎月やることで利用者さんたちのスキルが上ってきています。それに従って作業効率が高くなりました。部数が増えても作業の時間と日数は以前と変わらないくらいで終わることができ

配本の作業を滞りなくこなす
活動の一翼を担うという自負

ようになりました。

編集 その理由は何だと思えますか？

大島 作業に慣れてスキルが上ったことで、次に自分が何をすれば良いのかを分かっている利用者さんが増えました。職員が指示をしなくても、自ら進んで作業してくれる人が多くなったのが作業効率が上がった理由だと思います。

編集 毎月きちんと全国に届いているのは皆さんのお陰だと思えます。

大島 できるだけ早くお届けできるようにスケジュールを組んでいます。早くお届けするのはもちろんとして、丁寧な梱包作業も心掛けています。

編集 障がいのある人たちが作業を行うということで気を付けていることはありますか？

大島 利用者さんの中には、体調によって作業ができない、できなくなる、という人もいますので、作業の前や作業中に状態を観察するように気を付けています。それと、その人の特性に合った作業をお願いするように配慮をしています。

編集 大島さんが本誌を読んで感じる点などがありますか？

大島 繋がりのある事業所以外の情報を知る機会が少ないので、「全国にはこんな事業所もあるんだ」とか、「こんな活動をやっている人たちもいるんだ」というのが分かって嬉しい気がしますね。

編集 「嬉しい」とはどんな意味ですか？

大島 私自身が福祉に携わる一員として、「全国に同志がいる」と思えることですか。いろんな記事を目にするたびに「仲間がいっぱいいるなあ」と心強く感じるがあります。そういうところが嬉しいです。

編集 そうですか。本誌の発行に関わる全員の励みにもなると思えます。

大島 一般財団法人メルディアとMELDIAの理念や活動に対する認知度が今よりもっと高くなればそれに伴って、障がい、障がいのある人たちに対する理解も進んでいくと思います。

編集 本誌への要望などありますか？

大島 いろんな分野で活躍している障がいのある人たちとか、他にはない特色を持って運営をしている福祉事業所をこれからも取材して欲しいと思います。

編集 本誌の読者に向けて何か伝えたいことがあったら聞かせてください。

大島 私たちが配本作業に関わることで一般財団法人メルディアとMELDIAの活動の一翼を担えているのだとしたら、丁寧に迅速な作業を心掛けながら、毎号きちんと全国の読者に届けられるように、これからも頑張りたいと思います。

※編注/記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。



Aplusc

アートとは作家のバックグラウンドに捉われずに
自由に観て楽しんで想像をすることができるもの



**機内での偶然の出会いが契機
アートとは自由に感じるもの**
大橋 アートの世界に足を踏み入れることになった発端から教えてください。
入澤 10数年前、渡欧する飛行機内で偶然に隣り合わせになった人が作家で、その人と出会ったことがきっかけになったと思います。
大橋 何かエピソードがありましたか？
入澤 話が弾んでしまい、その作家が住むスウェーデンの自宅に招かれました。それが画家の中島由夫さんです。
大橋 いま思えば、すごい出会いでしたね。
入澤 日本出身の作家が海外で生活をしながら創作活動をする様子を目の当たりにして、刺激と感動を受けました。
大橋 その経験が後に現在の仕事へと繋がる契機になるわけですね。



障がい者を
支援する
人たち

Hisako Irisawa

アプリュスセー合同会社 CEO アートディレクター 入澤 日彩子 いりさわ ひさこさん

入澤 帰国してから国内の作家、特に若手作家の活動に興味を持つようになりました。その辺りから、作家をサポートする仕事をした、アートに関わる仕事をしたい、という気持ちになりました。
大橋 経緯と動機がすごく素敵です。ところで、今回のアート展は様々なバックグラウンドを持つ作家さんたちの作品を一堂に集めて展示するという企画になっていますが、その趣旨と意図を教えてください。
入澤 以前から、「障がいのある作家だとか、「障がいのある人たちによる作品」という括りで展示が行われているアート展が多いことに疑問を感じていました。属性などの接頭辞が冠されてしまうのは、本来あるべきアート鑑賞の姿ではないと思っています。
大橋 先入観があると、作品から受ける印象も変わってしまいますよね。
入澤 展示してある作品を自由な視点で見、自由にイメージしてもらうことが必要なのだと思います。
大橋 確かにそうですね。
入澤 誰でもそうですが、障がいだけに限らず、国籍、性別、境遇などに対して一本のボーダーを引いてしまいがちです。それは非常に「もったいない」ことだと思います。

巻頭でお伝えしているアート展「BORDERLESS—アートがすべてのサカイをとかしていく—」は、国籍、性別、境遇など全ての属性やバックグラウンドと、あらゆる境界を排除するという趣旨のもとに企画されました。

同展でアートディレクターを務めたのは、若手アーティストの活動サポートとマネジメント、作品の展示などに関する企画、空間コーディネート、美術品の販売などを手掛けるアプリュスセー合同会社のCEO・入澤日彩子さん。

入澤さんがアートに関わる契機となったエピソードを始めとして、障がいのある人たちが描いた作品に対する思い、アート全般に関する考え方を聞いてみました。

取材／大橋はるか



入澤 線引きをすることが、自分の感性の幅を自ら狭めてしまうことになると感じています。
大橋 そうですね。
入澤 アートとは本来、自由に見て、自由に感じて、自由に楽しむものであるべきです。作家に「障がいがある」とか「経歴がどうだ」というのは全く関係がありません。
大橋 そこから、ボーダーの無いアート展という今回の企画へと繋がるわけですね。
入澤 アートを純粋に楽しむには、平和であることはもちろん、多様性を容認するという「平らかな心」を持っていることも必要になるのだと思います。

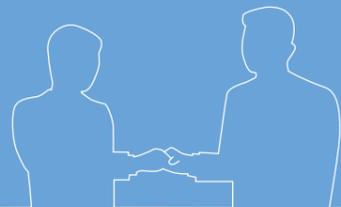


アプリュスセー合同会社
東京都千代田区神田小川町1-8-3 3F
TEL / 03-6868-4021
http://aplusc.co.jp/

 <https://www.instagram.com/aplusc11c>



※編注／記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。



障がい者と家族の法律問題

相続法改正の要点⑨ 改正相続法のおさらい



表参道パートナーズ法律事務所
弁護士／安部 晃平

1986年福岡県出身。2012年上智大学法科大学院修了。2013年弁護士登録。2016年より現職にて、中小・ベンチャー企業の労務管理、訴訟を中心に、各種企業法務を取り扱う。表参道パートナーズ法律事務所所属。

相続法改正の背景 配偶者保護と遺言利用の促進

このシリーズも今回で最後となりますので、これまでのお話をおさらいしたいと思います。

① 改正が行われた背景

この数十年で、平均寿命が伸び、少子高齢化が進んだこと等から、相続開始時における配偶者の年齢が高くなる一方で、子どもについては経済的に独立している場合も多いため、配偶者と子どもが相続人になる場合には配偶者を保護する必要性が相対的に高まっている等相続を取り巻く環境が変化しました。そこで、残された配偶者の保護や遺言利用の促進のために、約40年ぶりに相続法が改正されることになりました。

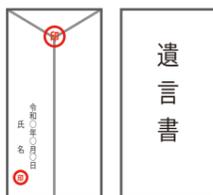
② 自筆証書遺言作成ルールの緩和

自筆証書遺言は、遺言書の内容と作成日付を自署して、署名押印するという最も簡単な遺言の作成方式ですが、作成ルールが簡単である反面、全文を自書するという負担の大きさから利用が阻害されていたとの指摘がされていました。そこで、自筆証書遺言をより使いやすいものとするべく、その利用を促進する観点から、自筆証書にこれと一体のものとして相続財産の目録（「財産目録」といいます）を添付する場合には、その目録については自書を要しないこととされました。



③ 遺言書保管制度

前述した自筆証書遺言は、遺言者一人で作れる簡単な方式ですが、遺言を作ったことが相続人に伝わらず、遺言が発見されない可能性がありました。そこで、法務局が自筆証書遺言を預かり保管してくれるという制度を設けました。これが遺言書保管制度です。



④ 預貯金の払戻し制度

相続人間の利害関係の調整を図るという点でも新たな制度が設けられました。これまでは遺産分割前は相続人全員が共同でしなければ、相続財産の預貯金を払い戻すことができませんでした。しかし、それでは葬儀費用等の緊急の資金が捻出できないため、一定限度で各相続人が預貯金の払戻しをすることが認められました。

改正の趣旨の主要ポイント 残された配偶者の保護

⑤ 配偶者居住権

高齢の夫婦の一方が亡くなった場合、残された配偶者が同居していた家に引き続き住むには、遺産分割により配偶者がその家の所有権を取得するか、その家の所有権を取得した人から借りる必要があります。もっとも、前者の場合は、家の評価額が高いとその他の財産を十分に取得できなくなる可能性があります。後者の場合は、その家の所有者が貸してくれるか不透明です。

⑥ 配偶者短期居住権

配偶者が自宅の所有権または配偶者居住権を取得しない場合でも、短期間に限り引き続き無償で自宅に住むことができる権利を設けました。相続開始後の短期間に限り、配偶者に従前の住環境での生活を保障することとしたのです。それが配偶者短期居住権という権利です。これは遺産分割によりその建物の帰属が確定した日か、相続開始の時から6か月を経過する日のいずれか遅い方の日まで存続します。

⑦ 持戻し免除の意思表示の推定

従来は、居住用の家を生前に贈与したり遺言により贈与（遺贈）といたします。したりした場合、遺産分割の場面では、その家の評価額も遺産として持ち戻した上で、各相続人の取得分を計算してまいりました。この場合、贈与を受けた相続人は、その家の評価額で取得分がいっぱいとなり、他の財産を取得できないことが多くあります。

一方で、被相続人が、贈与した財産を遺産に含めない意思を示していた場合（持戻し免除の意思表示といいます）は、その財産を遺産に含めず、各相続人の取得分を計算するため、贈与を受けていた人の取得分が前記の場合よりも増えることとなります。

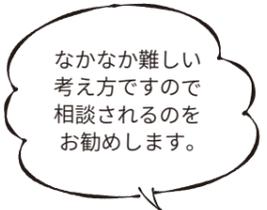
そこで、改正法では、婚姻期間が20年以上の夫婦の一方が配偶者にして居住用の家を贈与した場合については、持戻し免除の意思表示があったものと推定することとされました。

法律相談を募集しています

読者の皆さんの「弁護士に相談したいこと」「障がいの当事者または家族であるが弁護士に聞いてみたい」ことなどを法律相談を募集しています。詳細は28ページにある「法律相談募集要項」を参照してください。

なお、相談の内容は、個人が特定できない形で回答とともに記事として掲載させていただく場合があります。また、全ての相談に対して回答できるものではないことを、予めご了承ください。

※本募集は一般財団法人メルディアが行うものであり、表参道パートナーズ法律事務所とは直接の関係はありません。



改正相続法は、早い制度は2019年1月13日からスタートしており、遅いもの（配偶者居住権など）でも2020年4月1日からスタートしています。まだまだ未知な部分も多いですが、新しい制度を上手く活用して、皆さんの生活がより豊かになることを願っています。

所有権を取得するよりも相続財産の価値として低く評価されるため、他の財産もより多く取得することができます。また、法律で定められた権利ですので、家の所有権を取得した人の意向に左右されず



DATE

履歴書

令和2年3月31日現在

ふりがな 氏名	とくどう たいさく 徳堂 泰作	ローマ字表記 Tokudou Taisaku
昭和42 (1967) 年 3月 19日生	<input checked="" type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	
出身地 富山県富山市	趣味 サッカー、スポーツ観戦	
家族 本人・妻・長女・長男	座右の銘 なるようになる	
公職／役職 社会福祉法人東京ムツミ会 業務執行理事／ファロ 管理者 NPO法人日本ソーシャルフットボール協会 東京担当	資格 精神保健福祉士、その他	



年	月	職歴
昭和63 (1988)	4	「ムツミ第一作業所」に入職
平成元 (1989)	4	「ムツミ第二作業所」に移動
平成6 (1994)	4	「ムツミ第二作業所」の所長に就任
平成14 (2002)	9	「社会福祉法人東京ムツミ会」設立／常務理事に就任
〃	〃	「ムツミ第二作業所」を「小規模通所授産施設ムツミ」に事業変更／施設長に就任
平成20 (2008)	7	障害者自立支援法により事業移行し事業所名を「ファロ」に変更
〃	〃	「社会福祉法人東京ムツミ会ファロ」の管理者に就任
〃	〃	就労継続支援B型事業／地域活動支援センター／相談支援事業／居住サポート事業の4事業を開始

※編注／一部を割愛させて頂きました

**実兄にあった障がいが動機に
普通の暮らしを叶える支援を**

編集 徳堂さんが障がい福祉の道を志した動機から教えてください。

徳堂 高校卒業後の進路について、体育の教師になろうか、福祉の道に進もうかと考えたのですが、いま改めて考えてみると「兄がダウン症だったから」ということが理由の一つになっているのかもしれません。

編集 家族に障がいのある人がいたことで、「障がい」に対する先入観などが少なかったということですか？

徳堂 兄だけでなく、兄が通う養護学校（※当時の名称）の友だちと一緒に遊ぶとか、私の周囲に障がいのある人たちが多くいました。だから、「障がい」を意識しないで接していましたし、それが普通だと思っていました。

編集 結局、福祉系の専門学校に通うことを選んだわけですね。

徳堂 いざ専門学校に通ってみてもあまり勉強に熱心な学生ではなかったと思います。勉強をするよりも知的障がいのある人たちが支援するボランティア活動を熱心に行っていました。

編集 どんなボランティアですか？

徳堂 知的障がいのある人たちの遊び相手をするサークルでした。そこで週に2回くらいボラン

PERSONAL HISTORY
パーソナルヒストリー

ひと

ひとの「歴史」から探る障がい福祉

第12回

福祉系の専門学校を卒業しながら、後に福祉事業所に入職するまで障がいの種別さえよく分かっていなかったと語る人がいます。

その理由を、自身の専門学校生時代を振り返って「あまり熱心な学生ではなかったから」と自嘲気味に述べ懐きます。

入職した福祉事業所で精神障がいのある人たちの支援に関わることになりますが、そこで耳にしたのは「普通に暮らしたい」という言葉だったといいます。



社会福祉法人東京ムツミ会ファロ
管理者／精神保健福祉士
徳堂泰作さん

そこから「普通に生きるとは何か」を考えるようになり、**精神障がいのある人たちにとっては**
社会の中で「普通に生きること」がいかに
難しいことなのかを知ったといいます。



募集&告知

各種募集と告知

布施博または大矢真那が取材に伺う「訪問先」を募集しています。
また、当財団に対するご支援とご協力をお願いを掲載しています。

法律相談を募集 弁護士が相談を承ります

Recruitment

読者の皆さんや障がいの当事者またはご家族の人たちが弁護士に相談したい事、聞いてみたいことなどがありましたら当誌の事務局まで住所、氏名、連絡先、相談概要などをお送りください。本件の法律相談は無料で行います。

【必ずお読みください】

- ※応募に際しての記載事項などは個人情報保護の観点に則り、本件以外には一切使用いたしません。
- ※本誌に掲載させて頂く場合、個人を特定できない匿名の相談内容として記事にいたします。
- ※相談の受任可否についてはお答えすることができません。
- ※全ての相談に対して回答するものではありません。

氏名、連絡先、相談概要などを以下に記載の住所またはメールアドレスまでお送りください。

■応募先/郵送の場合

〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F
一般財団法人メルディア事務局/法律相談係 宛て

■応募先/Eメール

MAIL:org@gf-meldia.com
※件名(Subject:)に必ず「法律相談」とご記入ください

月刊MELDIA常設設置拠点募集

一般財団法人メルディア(以下、当財団)では、広報誌「月刊MELDIA(以下、本誌)」の常設設置拠点を随時募集しています。特に障がいのある人が集まる場所や施設内部など、設置場所のご提供をお願いしています。詳細は当財団の事務局までお問い合わせください。

月刊MELDIA定期購読希望者募集

「月刊MELDIA」はフリーペーパーです。お近くに設置拠点がなく入手が困難な場合や、定期購読をご希望の場合に送料無料で発送しています。定期購読をご希望の場合は当財団事務局までご用命ください。

※定期購読の場合、発送業務に関しては、東京都新宿区内にある福祉事業所の利用者さんたちに依頼して全国に発送しています。

一般財団法人メルディアへのご支援とご協力を募集

障がいのある子供を持つ親の苦勞や将来への不安は、他の人には計り知れないほど大きなものがあります。さらに、それが寡婦・寡夫家庭であった場合、経済的な負担、苦勞、不安なども一人で背負わねばならない状況に置かれることもあります。

私たち「一般財団法人メルディア」は、会報誌「月刊メルディア」を通じて、誌上に厳選した有益な情報を掲載することで、周囲との情報交換もままならず不安を抱える人たちの情報源として、その一助となれることを目指しています。

私たち「一般財団法人メルディア」の活動に対するご支援(取材協力・協業の相談・各種支援・支援金・寄付)など、当財団の趣旨に賛同してご協力を頂ける企業・団体・個人を募集しています。下記にある当財団の事務局までご相談ください。

お問い合わせとご相談はこちら 一般財団法人メルディア

〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F
一般財団法人メルディア 事務局/担当:後藤(ごとう)・鷺坂(さぎさか)宛て
TEL:03-5381-3213 / MAIL:org@gf-meldia.com



ホームページとFacebook

一般財団法人メルディアのホームページでは当財団の取り組みやイベント情報、取材の裏話など、情報が盛りだくさん! Facebookページのご用意もあります。是非とも一度、ご覧ください。

MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



PERSONAL HISTORY

社会福祉法人東京ムツミ会ファロ/徳堂泰作さん

PERSONAL HISTORY

ひと

DATE

ティアをしていました。

編集 専門学校を卒業して福祉事業所に入職することになるわけですが、なぜ精神障がいのある人たちを支援する事業所に入職先に選んだのでしょうか?

徳堂 あまり勉強が得意でなかったせいもありますが、当時の私は障がいの種別や区分が分かっていませんでした(笑)。知的障がいと精神障がいを混同している人たちが多いと思うのですが、その頃の私もそうでした。

編集 精神障がいのある人たちを支援する福祉事業所の管理者をやっている現在の徳堂さんからは想像もできません。

徳堂 入職してしばらく時間が経ってから「あれ?何か違うぞ」と、そこで初めて気が付きました。今でこそ笑い話ですが、そんな程度のレベルでした(笑)。

編集 信じられません(笑)。

徳堂 入職したのが小規模の福祉事業所だったことで、「今日は何をすればいいか」「どんな支援をすればいいのか」を職員が自分たちで考えなければなりません。その作業が大変ではあったんですけど、支援のプログラムを組み立てて、それを実践することに「やりがい」を感じるようになっていきました。

編集 なるほど。

徳堂 精神障がいのある人たちの中には、すごく高学歴な人たちもいました。そんな「人生の先輩」

とでもいべき人たちにいろんなことを教えてもらうことも多かったですね。職員と利用者という立場を超越して同じ人間として対等に付き合っていました。

編集 その時の経験が現在の徳堂さんを形成することへと繋がっていくわけですか。

徳堂 精神障がいのある人たちの中に「普通に暮らしたい」という希望を持っている人が多くいます。それを聞いて「普通」を辞書で引くと「あたりまえ」と書いてある。精神障がいのある人たちの周囲の認識や理解が乏しいせいで、彼らの望む「普通」で「あたりまえ」な暮らしが叶えられないのだとしたら、それを叶えるための支援をすること、それが私たちの仕事なのだと思います。



社会福祉法人東京ムツミ会ファロ
〒160-0022東京都新宿区新宿1-16-16
フェアカテリーナ3階
TEL/03-3350-4437
<http://www.mutumi.or.jp>



※編注/記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。

湘南ベルマーレ

ホームゲーム観戦チケットプレゼント

SHONAN BELLMARE
JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE

©1993 SHONAN.BM

新型コロナウイルスの影響により「2020リーグYBCルヴァンカップ グループステージ第2節」の全ての試合と4月以降開催予定の「2020明治安田生命リーグ」の全ての公式戦の開催延期および中止が発表されています。今後の詳細などに関しましては右記のURLにて随時お知らせいたします。 <https://meldia.org/present/>



療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、介添者の方1名を湘南ベルマーレのホームゲームに抽選でご招待いたします！

■ホームゲーム一覧

開催日	キックオフ	対戦相手	申込め切
5/23(土)	15:00	大分トリニータ	5/ 9(土)
6/13(土)	19:00	ガンバ大阪	5/30(土)
6/27(土)	19:00	サガン鳥栖	6/13(土)

■応募から観戦までのステップ

STEP 1

応募

HPの応募フォームへ必要事項をご入力



応募フォームはこちら

<https://meldia.org/present/>

ホームページからも応募できます

財団 メルディア 検索

STEP 2

メール

応募完了メールが届いたら受付完了

ドメイン指定をしている方は「org@gf-meldia.com」を指定メールアドレスに追加してください。応募後、5日経っても応募完了メールが届かない場合は恐れ入りますが下記お問い合わせ先までお電話ください。よろしくお願いいたします。

STEP 3

抽選

当選者へチケットをお送りします

当選者の方へ当選メールを送信後、応募フォームにご入力頂いた住所宛にチケットをお送りいたします。当選発表はメールの送付をもってかえさせていただきます。

STEP 4

観戦

スタジアムへGO!

チケットに記載のゲートよりご入場ください。どうぞ観戦をお楽しみください！



ACCESS

Shonan BMW スタジアム平塚へのアクセス 詳細は湘南ベルマーレ HP をご覧ください



JR 東海道線平塚駅、小田急小田原線伊勢原駅よりシャトルバス、路線バス運行



圏央道寒川南 I.C. より湘南銀河大橋、国道 129 号線経由で約 15 分 (国道 129 号線に随時「総合公園」の看板あり)

駐車場は台数に限りがありますので予めご了承ください。

■お問い合わせ先■

一般財団法人メルディア 事務局 担当:鷺坂(さぎさか)/後藤
TEL 03-5381-3213 受付時間▶月曜日~金曜日 9:30~18:30

※抽選結果に関するお問合せにつきましてはお答えしかねますのでご了承ください。

30 MELDIA CONTENTS 2020 JUNE

01| 障がい者を応援

アート展- BORDERLESS - 開催

06| 一般財団法人メルディアとは?

メルディアの基本理念、財団概要、支援事業

07| 布施博が訊く

スマイルウォーキング倶楽部/東京都千代田区

11| 篠崎彩奈の「あやなんがいく」

エスプールプラス/東京都千代田区

15| 水越けいこ連載「M size / はじまり」

水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る

17| 福祉事業所探訪

東京ムツミ会ファロ/東京都新宿区

21| 障がい者を支援する人たち

アートディレクター・入澤日彩子さん

23| 弁護士が教える「障がい者と法律」

表参道パートナーズ法律事務所/弁護士・安部晃平

25| ひと - PERSONAL HISTORY -

東京ムツミ会ファロ/徳堂泰作さん

28| 募集と告知

各種募集と一般財団法人メルディアからのお知らせ

月刊 MELDIA Vol.30 / 2020年4月25日発行

発行元 / 一般財団法人メルディア

発行人 / 小池信三

事務局 / 榎本喜明、後藤正善、鷺坂浩章

編集 / 株式会社サン・オフィス

編集人 / 東宮恵美

編集長 / 山口慎市

進行 / 谷田貝亘介

編集部 / 株式会社サン・オフィス

ライター / 水越けいこ、布施博、大矢真那、篠崎彩奈、安部晃平、森清香、大橋はるか、渡邊希望

カメラマン / 吉岡晋

ヘアメイク / 株式会社Dharma

デザイン / 有限会社フレッシャー・アド

印刷製本 / QREAS株式会社

協力 / MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計、社会福祉法人慈生会 マ・メゾン光星、佐藤謙太郎、つながるひろがるアート展NASU実行委員会、清野隆、ギャラリーバーン、アブリユスセー合同会社、入澤日彩子、一般社団法人スマイルウォーキング倶楽部、株式会社エスプールプラス、社会福祉法人東京ムツミ会ファロ、表参道パートナーズ法律事務所、株式会社TDPミュージックパブリッシャーズ、株式会社PHOTO MIO JAPAN、株式会社Dharma

※敬称略/順不同

本誌の無断転載・複製を禁じます

2017-2020©All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア/月刊 MELDIA MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計 / 株式会社 サン・オフィス



次号予告

MELDIA VOL.31

2020年5月25日 発行予定

一般財団法人メルディア

〒163-0632
東京都新宿区西新宿 1-25-1
新宿センタービル 32F

一般財団法人メルディア 事務局

TEL: 03-5381-3213

MAIL: org@gf-meldia.com



一般財団法人
メルディア
Meldia Foundation